

高活協通信(2023年8月号)

発行：一般社団法人 高齢者活躍支援協議会

<http://www.agenomics.org>

◆◆◆高活協ニュース◆◆◆

■お知らせ

- 今月の“「定年後の仕事」情報欄”は、“連載「定年後の仕事はジョブ型」”の第1回目です。
- 高活協通信「今月の一冊」は、「60歳からピアノをはじめなさい」です。
- 高活協ホームページを更新しました。
 - ・「高活協ホームページ」のURLは以下の通りです。

<http://www.agenomics.org>

高活協は会員の皆様に毎月1回「高活協通信」を配信させていただいております。この通信活動を会員の皆様と高活協とのコミュニケーションの機会とさせていただきたく考えております。つきましては、皆様のご意見や提供したい話題などがございましたら、本配信メールへの返信にてお寄せいただければ幸いです。

■2023年7月の主な活動

- 高活協は現在、シンポジウムなど人が多く集まるイベント活動を停止しております。ただし、少人数の会議・イベント等、あるいはZOOM等を利用したオンラインの会議・イベント等は適宜実施しております。
- 2023年7月27日、高活協が連携している一般社団法人未来社会共創センターの理事会に理事として出席しました。同理事会では2023年8月1日に予定されている同社団総会の議題について審議しました。なお未来社会共創センターは、東京大学高齢社会総合研究機構が中心となって設立した一般社団法人で、高齢社会に関する課題の解決を目的とした活動を行っています。
- “「定年後の仕事」情報欄”では、今月号から「定年後の仕事はジョブ型」を連載します。
- 高活協ホームページの「高活協アーカイブ」ページにおいて、「高活協通信(2023年7月号)」を掲載しました。
- 2023年7月、生涯現役社会の実現に向けた行政や企業などの動向に関する情報収集を行いました。なお、「◆◆◆生涯現役社会の実現に向けてートピックス◆◆◆」のコーナーでは、“「定年後の仕事」関連情報”を適宜掲載していきます。

◆◆◆高活協主催/共催イベントの紹介◆◆◆

■これまで高活協が主催した(共催含む)イベントの報告書/記録集

過去に高活協が主催・共催したイベント(シンポジウム、セミナー/フォーラム)の報告書や記録集は、高活協

ホームページの「高活協アーカイブ」ボタンをクリックしてご覧になれます。(ホームページは下記 URL)

<http://www.genomics.org/>

◆◆◆高活協会員関連イベント等のご紹介◆◆◆

会員のご希望があればご紹介記事を適宜掲載させていただく予定です。

◆◆◆生涯現役社会の実現に向けて – トピックス◆◆◆

生涯現役社会は、「職業寿命」「社会活動寿命」「健康寿命」「資産寿命」という 4 つの寿命の延伸が相乗効果をもたらす社会、すなわち「それぞれの寿命の伸びが相互に他の寿命も伸ばす」という好循環がもたらされる社会です。そんな生涯現役社会の実現に向けた最近の動きを紹介していきます。

■ちょっとした「データ」

増え続ける高齢者(65歳以上)の就業者数と就業率

総務省労働力調査(2021年)によると、高齢者の就業者数は増え続け(2011年=571万人→2021年=909万人)、就業率も年々増加しています(2011年=19.2%→2021年=25.1%)。

前期高齢者(65歳～74歳)の就業率は近い将来5割を超える?

総務省の同調査によると、高齢者一步手前の60歳～64歳の就業率は71.5%ですが、65歳～69歳の高齢者の就業率は50.3%と5割を超えました。70歳～74歳の高齢者の就業率も3割を超えており、近い将来、前期高齢者(65歳～74歳)の就業率が5割(半数)を超えるのではないかと思います。つまり高齢者も75歳までは働くのが普通の時代がやってくるのではないのでしょうか。

高齢者(65歳以上)の雇用形態

次に高齢者(65歳以上)の雇用形態ですが、2021年の総務省調査による、と正規(24.1%)、パート・アルバイト(52.2%)、契約社員(9.5%)、嘱託(7.0%)、派遣社員(3.1%)、その他(4.3%)となっており、約76%が非正規雇用者として働いています。ちなみに非正規雇用を選ぶ理由で最も多いのは「自分の都合の良い時間に働きたい」(男=30.7%、女=38.0%)ですが、いずれにしても高齢者の就業は、年齢にかかわらず「非正規雇用が中心」ということに留意する必要があると思います。

■「定年後の仕事」情報欄

○2021年4月から施行された改正高年齢者雇用安定法(=70歳就業法)では、定年後の継続雇用だけでなく、継続的な業務委託や社会貢献活動への支援といった措置も選択肢になっており、高齢者の多様な働き方を後押ししています。

○今後このトピックスのコーナーでは、「定年後の仕事」に関連した情報を適宜掲載していきます。高齢者の就業を考える際の参考にしていただければ幸いです。

連載「定年後の仕事はジョブ型」

先月号までは「高齢者は定年後どんな仕事をしているのか」を見てきました。今月号からは別の視点から定年後の高齢者就業について見ていきたいと思います。

「メンバーシップ型」が良いか“ジョブ型”が良いか」の議論は現役世代が対象

最近、日本の雇用制度に関し「メンバーシップ型」が良いか“ジョブ型”が良いか」といった議論があります。これまで日本の多くの企業では、職務(ジョブ)を規定せずに雇用するメンバーシップ型の雇用制度を採用してきました。近頃この年功賃金と終身雇用で語られるメンバーシップ型雇用制度の完全な維持も難しくなってきたり、職務を明確にして雇用契約を結ぶジョブ型雇用制度の導入を標榜する企業も増えてきています。ただ一口にジョブ型といっても実際にはいろいろなパターンがあり、「必ずしも職務を固定せず、転勤や残業もあり」といった柔軟な運用の「日本的ジョブ型」を検討する企業も多いようです。(実は欧米でも「職務記述書に書かれている仕事しかやらず、残業や転勤は一切なし」といったような硬直的な運用のジョブ型雇用制度を採用する企業は少ないようですが・・・)。いずれにしてもこれらの議論は現役世代の就業を対象としたもので、定年後の高齢者就業を対象とした議論ではないと思われます。

定年後の高齢者就業は基本的に「ジョブ型」

現役世代の雇用に関しては、日本が置かれた労働市場や企業の特性に合わせた形で適切な雇用制度を導入すれば良いと思いますが、定年後の高齢者就業に関する雇用は違います。定年後は継続雇用者を含めほとんどが非正規雇用になるため、必然的に職務を明確にして雇用するジョブ型雇用が標準ということになります。そこで問題となるのは、日本の多くの企業はメンバーシップ型の雇用制度を採用してきたため、ジョブ型での就業には慣れていないということです。そのため定年後、会社の正規メンバーから外れ急にジョブ型雇用に移行すると戸惑ってしまうケースが多いようです。

定年後の就業に向けて「ジョブ型」雇用への対応力を高める必要

メンバーシップ型雇用制度の特徴は、「職能等級(ポスト)の階段を上がる競争」ではないかと思います。自分の職務に必要なスキルを磨いてプロフェッショナルを目指すよりも、職務は変わってもより上のポストを獲得する競争に血道をあげる傾向が強いと思われます。そのため、中高年になってポストの獲得に行き詰まったり、役職定年でポストを外れたりすると、途端にやる気をなくしてしまう人も少なくないと聞きます。職務遂行に必要なスキルも大して身につけておらず、「働かないおじさん」と揶揄されるのもそんなケースではないかと思われます。やはり定年前から自分が高齢になってもできる職務は何かを考え、必要なスキルを磨いて、定年後でも企業や社会に貢献できるように備える必要があります。なぜなら定年後の高齢者就業はジョブ型だからです。

定年後の高齢者就業に向けた職務(ジョブ)は小さな仕事

現役世代のジョブ型議論では、優秀なグローバル人材の獲得競争などとの関連で話題になることが多いのですが、定年後のジョブ型議論では、人手不足解消や地域貢献(生きがい就労)などとの関連で語られることが多いようです。その意味で高齢者就業の職務は、必ずしも難しいスキルを要求せず、高齢者でも無理なく企業や社会に貢献できる「小さな仕事」が中心になると考えられます。そして職務に必要なスキルも、それほど高難度ではない「小さなスキル」が中心になると言えるかもしれません。

定年後の高齢者就業のためのマッチング機能(外部労働市場)の形成が必要

そこで高齢者就業を円滑に促進するために必要となるのがジョブとそれを求める高齢者とのマッチングです。メンバーシップ型雇用制度では、職務(ジョブ)を明確にせず学生を一括採用する。そして、職務に必要

な人材は企業内の移動で充当する内部労働市場が中心です。そのため日本では外部労働市場はあまり発達していません。しかし退職してメンバーを外れた高齢者は企業内移動ではなく外部労働市場を通じて雇用するしかありません。つまり高齢者就業を円滑に促進するためにはジョブ型対応の外部労働市場を整備する必要があります。

◆◆◆読み物コーナー◆◆◆

■今月の1冊

人生100年時代を迎え、シニア層の増加を意識した書籍が増えているようです。このコーナーでは、高齢者の就労に関わるテーマや高齢者の社会参加、ライフスタイル、健康問題などを取り上げている書籍を紹介します。

書名:60歳からピアノをはじめなさい～データでわかる 脳を活性化するピアノレッスン～

著者:元吉 ^{もとよし}ひろみ

出版社:ヤマハミュージックエンタテインメントホールディングス

(URL <https://www.ymm.co.jp/p/detail.php?code=GTB01094593>)

定価:1,980円(税込)

今回は、60歳以上のシニア世代に向けたピアノレッスンを取り上げた書籍をご紹介します。といっても、ピアノの演奏法の技術的な側面を解説したのではなく、ピアノ指導者を念頭に、シニアのピアノレッスンの現状と課題を紹介しているところに特徴がある書籍だと思われます。

ピアノのレッスンといえば、「子どもの習い事」という印象を持っている人が多いと思いますが、少子化の影響で、最近では、シニア世代を対象としたピアノレッスンが、街のピアノ教室でも公民館の講座でも人気を集めているとのこと。指導者にとっても、こうしたピアノ学習層の変化は見逃せないようで、多くの指導者が指導法講座を受講しているようです。シニア世代向けレッスンのための教本、ワークブック、参考書なども誕生しているそうで、「6月6日」が「シニアピアノの日」として登録されているという話には、時代の変化を感じざるを得ません。

本書は、こうした状況を踏まえてまとめられたもので、60歳以上のピアノ学習者、約300名に対するアンケート調査結果をもとに、その分析結果が詳しく紹介されています。特に、練習のタイプ別に見た練習日数や練習時間の違い、60代・70代・80代・90代の世代別ピアノ学習法の現状、シニア層の「正しいピアノの習い方」などには、それぞれ興味を引く結果がまとめられています。

著者は、日本シニアピアノ教育研究会代表で、音楽教室の講師を経て、海外の大学で「グループ・ピアノ指導法」を習得。その後、シニアを対象としたグループレッスンを始めて、教育の実践とともに、さまざまな観点からシニア世代のピアノ教育に関する研究を続けている方です。タイトルが趣旨とやや異なるところが難点ですが、ピアノを教える側のみならず、定年間近で、これからピアノを始めたいと考えているシニア世代に

とつても、「学習の動機づけ」につながる内容が含まれた書籍だと思います。

(特別会員:坂巻 大)

■高齢者雇用の総合誌『エルダー』のご紹介

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構が発行する高齢者雇用の総合誌「エルダー」に関する情報は、下記の URL からご覧いただけます。

[啓発誌「エルダー」 | 独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構 \(jeed.go.jp\)](http://jeed.go.jp)

◆◆◆
配信先メールアドレスの変更をご希望の方、また配信が不要な方は高齢者活躍支援協議会・事務局までご連絡ください。

本通信に対するご意見やご感想をお聞かせください。

また、本通信に掲載してほしい情報等がありましたら、ぜひご連絡ください。

一般社団法人高齢者活躍支援協議会

〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町 17-2 兜町第 6 葉山ビル 4 階

TEL: 03-6555-3926 HP: <http://www.agenomics.org>
